

経営のヒント91 偉大な父親を持った二代目の苦悩！

武田勝頼の苦悩の種は信玄が撒いたもの

武田信玄。その偉大な父親をもった不幸な後継者、武田勝頼。
武田信玄は天下取りの絶好機を前にしながら、病を得て信州駒場で死去する。
武田軍団を率いることになった四男勝頼は、遺言どおり信玄の死を秘匿する。

信玄の死後、武田家中は親族衆、譜代重臣団、そして勝頼取立て衆の間で反目することとなる。
若い勝頼は、この内紛をとりしずめ、武田一族をとりまとめ、信玄のような統率力を発揮するのは容易なことではなかった。

しかも勝頼は、本来、武田宗家の家督を相続する資格のない庶子であり、信玄の嫡子義信が存命であれば伊那郡代にとどまる存在にすぎなかった身分であった。

武田一族、あるいは譜代重臣衆のあいだには、勝頼が信玄の跡目を継ぐことに釈然としない者が多く、親族衆の小山田信茂、穴山信君らは信玄死後、独立の動きを歴然とあらわしつつあった。

とはいえ、勝頼は武将として優れた器量を備え、勇敢でもあった。
体躯も人並み優れ、合戦に際しても陣頭に雄姿を現すと士卒は勇み立ったといわれている。
家中にそうした不満、内紛の芽があることを勝頼は熟知していた。
勝頼は家中の不満、内紛を合戦における勝利によって押さえ込もうと考え、「3~4年がほどは分国の備えを賢固にして国を備えよ」という信玄の遺言に反し、あえて積極的に軍事攻勢に打って出たのである。
東美濃、西三河を攻略したのち、次の攻撃目標を高天神城に。

この信玄でさえ落とせなかった高天神城を陥落させたことが、勝頼の命運を決定づけた。
歴史では、この2年後に長篠設楽原の戦いにて、信長に勝頼は壊滅的な敗北する。
さて、いろいろな理由が考えられます。
皆さんは、どう思いますか？

チャンスはピンチだ！
自信が過剰になった！
4月16日の未来創造志塾6期2回目にて、この続きは解説したいと思っています。
楽しみにしてください。

この話、現代の企業経営でも同じですね。
偉大な経営者を父に持つ二代目の苦悩は、武田勝頼と同じではないでしょうか？

<経営のヒント>

組織内部の不満、内紛」を解決するために積極的に行き、大成功すると長期的にみて、最後は結果的に失敗することになる。
事業継承するには、それなりに準備が必要。
特に、親族衆（現代であれば役員か？）譜代重臣衆（現代の生え抜きの部長 課長クラス）そして二代目の取り巻き（現代の参謀、ブレーン）をどうするか？
先代が事業継承の前に、事前に決めておくことがBESTですね。